

【継続】フェリー就航促進事業 277万円

留萌港と本州を結ぶフェリー就航は、道北の物流・観光ネットワークの形成、輸送コストの低減、新たな産業基盤の確立などが期待され、道北圏の経済発展に欠かせない緊急な課題です。

これまで行政と経済界が協力し、フェリー就航の環境づくりを行ってきました。

平成13年にはフェリーの試験運航を実施し、誘致運動は新たな段階を迎えています。今年度は、次の事業を行います。

- ①フェリー本社への就航要請
- ②相手港との情報交換
- ③出前トークの拡大
- ④CD・ROM作成によるPRの実施、など

【継続】港湾整備事業

留萌港は、背後圏である道北・道央地域の発展を支える物流拠点港湾として、港湾計画に基づき整備を進めています。



▲H13年10月、サンフラワー体験クルーズ

■直轄港湾整備事業

(再掲) 3億9990万円

(23億4700万円)

三泊地区は、埋立地を造成し、大型船に対応した水深12m岸壁(耐震)の整備を進め、外貿物流の機能強化と充実を図ります。

古丹浜地区は、航路の安全を確保し、外港地区は港内の静穏度を保ち、親水性のある港づくりを目指します。

■三泊地区ふ頭用地整備事業

(再掲) 1億1640万円

(再掲) 4,900万円

三泊地区臨港道路整備事業

【継続】生活道路整備事業

9,400万円

市民の日常生活に不可欠な生活道路を、継続的に整備します。

今年の整備予定路線は次のとおりです。

- 潮静15号通り/錦町1号通り
- 沖見29号通り/早道通り
- 野本7号通り/野本11号通り
- 南5丁目通り/見晴10号通り
- 元川2号通り/千鳥10号通り
- 沖見39号通り

【継続】沖見海浜公園整備事業

6,400万円

「ゴールデンビーチるもい」が、市民が海に親しみ、憩える親水性のある海浜公園となるよう、今年、北側ゾーンの便益施設(トイレ、シャワー、など)を整備します。

【継続】船場公園整備事業

3,045万円

船場公園が、留萌の交流拠点として、市民や観光客が憩い、集うコミュニティパークとなるよう整備します。今年も用地買収(2,960㎡)を行います。

行います。

【継続】公共下水道整備事業

7億2600万円

衛生的で快適な生活環境をため、公共下水道整備を進めます。

今年度は、管渠の整備延長、2,120m、整備面積は22ha。処理場では、最初沈殿池(2池)を新築します。

【継続】新信砂浄水場整備事業

2億6100万円

平成13～18年度までの6年間で、「取水口」「導水管」「沈砂

資料はコチラ

主要施策、予算などの資料は、市役所1階市政情報コーナーで、ご覧下さい。

お問い合わせはコチラ

主要施策、予算などのお問い合わせは、コチラにお問い合わせ下さい。

留萌市役所企画財政部

☎42・1801

主要施策：調整課(内線292)
予 算：財政課(内線221)

池「天日乾燥床」の改修を行います。
今年度は、沈砂池築造工事、沈砂池築造工事監理業務委託をします。

【新規】旧佐賀家漁場整備検討委員会設置事業

129万円

国指定の史跡「旧佐賀家漁場」と重要な有形民俗文化財「留萌の鯉漁撈(旧佐賀家漁場用具)」の整備活用について専門家による検討委員会を設け、整備実施計画を作成します。

解説

今年の予算

■平成15年度の一般会計の予算規模は、約148億6千4百万円で、平成14年度に比べると約3億8千8百万円の増額となりました。

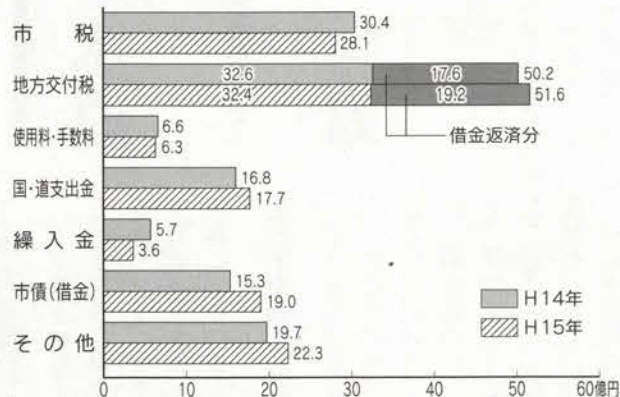
収支の状況

市税などの一般財源(使途が特定されずに自由に使えるお金)収入の大幅な減少の中で、支出では人件費などの行政経費の削減を実施しました。しかし、各特別会計に対する繰出金(資金援助)や公債費(借金返済)、生活保護などの扶助費など、義務的経費の増加が大きく、収入の減少に見合った支出の削減ができない状況です。

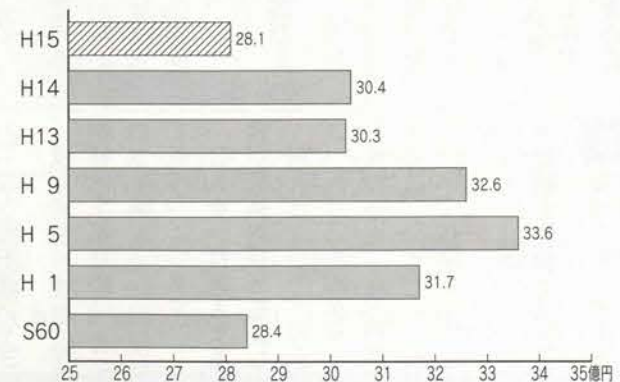
そのため、今年度の実際の収支不足額は、11億6千万円となり、この収支不足は、各種基金(貯金)や市債(借金)の活用、さらには市有地の売却費の計上により補い、予算を編成しました。

収入の特徴

【図1】一般会計予算 収入の比較 (H14, H15)



【図2】市税収入の推移



■市税(図2) 年々減少が続き、ほぼ昭和60年度の水準にまで減少しています。

■地方交付税(市町村の規模により国から交付される財源) 前年度と比較すると増加していますが、その内容は、借金返済分(14年度は17億6千万円、15年度は19億2千万円)として交付されている分の増額で、一般経費分(14年度は32億6千万円、15年度は32億4千万円)は減少しています。

■使用料・手数料 温水プールの収入は伸びていますが、ごみ減量化に伴うごみ処理手数料や住宅使用料等の減により減少しています。

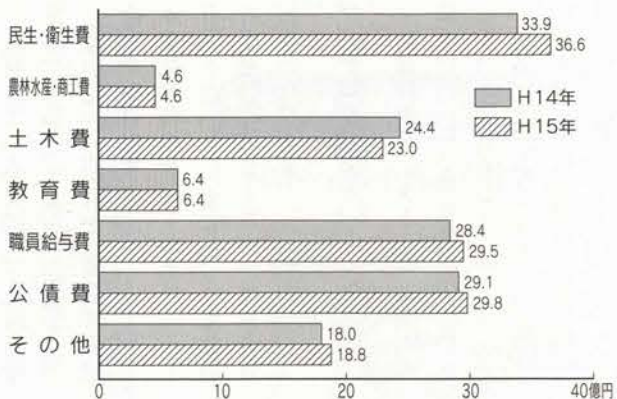
■繰入金 財源不足対策として各種基金を取り崩したり、基金からの借入金を計上していますが、今年度はその基金の残高が少ないため、財源不足対策として使えるお金が少なく、減少しています。

■市債(建設事業や収支不足を補うための借金) これまで地方交付税として交付されていたうちの一部を借金で賄うことになったため、その分の市債が前年度より約3億4千万円増えています。しかし、建設事業に充てる市債は前年度より減少しています。

■その他 財源不足対策として、市有地の売却収入を3億5千万円ほど見込んでいたため増加になっています。

支出の特徴

【図3】一般会計予算 支出との比較 (H14, H15)



■民生費・衛生費 主に医療費の伸びによる国保・老人医療・介護保険特別会計への繰出金、新病院建設に伴う借金返済の増による病院会計に対する繰出金が増加しています。

■土木費 主に建設事業の減により減少しています。
■職員給与費 給料や各種手当等は減少していますが、退職者の増により退職金分が増加しています。
■公債費(借金の返済) 年々増加しています。

※今後も財政状況を広報誌で詳しく紹介していきます。